

**CODE 海外災害援助市民センター**  
**2017 年度 事業計画**

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

\* 本年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定時期の項目を追加した。終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003 年	2022 年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008 年	2018 年度末
	3	東日本大震災救援プロジェクト	2011 年	2020 年度末
	4	ネパール地震救援プロジェクト	2015 年	2020 年度末
●終了予定プロジェクト	5	インドネシア・ジャワ中部地震 救援プロジェクト	2006 年	2017 年度末
	6	ハイチ地震救援プロジェクト	2010 年	2017 年度末
	7	青海省地震救援プロジェクト	2010 年	2017 年度末
	8	フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト (JICA 草の根技術協力事業へ移行)	2013 年	2018 年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県、パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	① ミールバチャコット地域の 2500 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 555 世帯(2017 年 3 月時点)。
実施内容	①ぶどう畑再生支援事業 ●2017 年度の計画 2003 年、288 世帯を対象にスタートしたコーポラティブシューラー(ぶどう協同組合)はこの 13 年間で 555 世帯(2017 年 3 月現在)に増加した。現地では、規模は小さいがマイクロクレジット方式で確実に組合に参加するぶどう農家が増加してきている。 2017 年度は、引き続き、このミールバチャコット産の有機レーズンを日本での販売を行

	<p>う。この支援プロジェクトを通じて、同地区を中心にぶどうの無農薬・有機栽培を浸透させる。そしてレーズンを活用して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまで支援して下さった方々に呼びかけると共に新たな支援者の拡大に努力する。</p> <p>(1)ミールバチャコット産有機レーズンの日本での販売 2022年までに総輸入量1tを目標にレーズンの輸入、販売を行う。2017年度は、年間100kgを目標に輸入する。これを契機として日本の支援者の関心をさらに高めることにより年間の現地固定管理費(8400ドル)を賄い、自立へのサポートを継続する。</p> <p>* イベントでの販売 今年度もコープこうべ、ワンワールドフェスタ for Youth、ユニセフのつどいなどのイベントでも販売も継続的に行う。その他、販売促進のための企画も考える。</p> <p>* 委託販売 ケペス(フェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社)の岡本玲子さんが2015年8月より定期的(毎月30p~50p)に購入してくれているように、委託販売していただけたところを増やす。</p> <p>(2)食と国際協力などのレーズンを食べながらアフガニスタンを知ってもらう機会を作り、レーズン販売などにも協力してくれる人を増やす。</p> <p>* 第32回食と国際協力 2017年4月20日(木) 講師:村井理事 「9・11から15年 れーずんを食べながらアフガニスタンの(今)を考える」 参加人数:11人</p>
<p>事業の目標と 終了予定時期</p>	<p>CODEの輸入するレーズンの総量を1tに定める。2016年度末時点での総輸入量400kgであるので、残り600kgを輸入するにはあと6年(年間100kgを輸入)が必要となる事から終了予定を2022年度末とする。ただし、2022年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。</p>

<p>事業名</p>	<p>1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト</p>
<p>実施日時</p>	<p>2008年5月13日~継続中</p>
<p>実施場所</p>	<p>四川省地震被災地域</p>
<p>受益対象者の範囲及び予定人数</p>	<p>四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民</p>
<p>実施内容</p>	<p>●2017年度の計画: ① 光明村老年活動センターの運営 老年活動センターは現在、村民委員会を中心に農家楽(農家レストラン)を運営しているが、正式な農家楽の営業許可の取得が必要なことなど軌道に乗っている状態には至っていない。</p>

現在、光明村のある地方政府が、村周辺の観光開発を計画しており、これに伴って村民委員会と共に老年活動センターの「農家楽」を盛り上げていく予定である。具体的な観光開発には、センターの農家レストランとセンター前の釣堀の運営、村の南部にある洞窟、竹林、小川などの整備などが挙げられている。CODE としてもこの動きを見ながら、一昨年度日本の学生によって植樹された桜や農家民泊などの現地住民の動きをサポートしていく。

**\* 現地 NGO ネットワークとの学び合い**

2015 年度、2016 年度と将来の NGO を担う若者が現場で学ぶ機会を提供するために若者(2015 年 6 名、2016 年度 6 名)と共に四川大地震の被災地を訪問し、被災者や NGO、ボランティアと「防災教育」などの交流をしてきた。また、2015 年度には四川の NGO スタッフ 3 名を日本に招聘し、神戸、中越で学びの機会を得た。

この事業がきっかけで、2017 年 6 月に四川省より教師、NGO などからなる 30 名の訪問団が CODE とのコラボで来日し、神戸市で学校を訪問し、防災教育や安全管理などを学ぶ。(詳細は以下)

今年度も 2018 年の四川地震 10 周年を視野にいれ、防災教育などを中心に若者と現地 NGO との学び合いを続け、その中から未来基金につながる若者を発掘する。

**●今年度の予定**

\* 四川第 28 次派遣(2017 年 5 月 9 日～18 日) (吉椿)

\* 6 月 14 日 JICA—壹基金防災減災訪日団へ講義(吉椿)

**\* 中日減災・防災国際交流事業**

時 期:2017 年 6 月 20 日～25 日(5 泊 6 日)

場 所:神戸市内

参加者:28 名(四川や北京の NGO 職員、四川、上海の学校関係者)

訪問先:舞子高校、東灘小学校、中華同文学校、人と防災未来センター、はたば学舎  
講 師:矢守克也さん(京都大学防災研究所)、岡田洋一さん(神戸市教育委員会)、

梶木典子さん(神戸女子大学)、諏訪清二(防災アドバイザー)、永田和宏さん(プラスアーツ)など

企画者:NGO 備災センター(張国遠)

出資者:Save the Children Beijing (国際救助児童会北京)

売れ入れ:CODE(吉椿)

**\* 四川地震から 10 年のシンポジウムの共同開催**

四川地震から 10 年の節目である 2018 年に現地の NGO と協働で「防災教育」や「復興」をテーマにシンポジウムを開催する。四川の NGO の張 国遠さん(NGO 備災センター事務局長)や高 圭滋さん(四川尚明公益発展研究センター主任)などと現在、協議している。

	<p>* 日中 NGO・ボランティア交流事業の実施</p> <p>これまでに本事業を3回実施した。若者が、実際に CODE の支援する被災地のフィールドを歩き、現地の人に触れ、考える事で若者に大きな経験と学びをもたらした。昨年のこの事業をきっかけに神戸学院大学や神戸大学の学生は、その後も CODE のボランティアとして様々な協力をしていただいた。また、未来基金の第1号事業のフィリピンフィールド研修の申請者である神戸大学2年生の学生もこの事業を機に CODE にかかわるようになった。</p> <p>今年度も2018年の10周年シンポジウムに向けて、日本の若者の四川省での研修を行い、CODE や未来基金にかかわる若者のきっかけづくりとする。</p>
事業の目標と終了予定時期	2018年度で四川大地震から10年も節目を迎える。2018年度を目途に光明村の農家楽を軌道に乗せ、現地の NGO と防災教育を通じた学び合いの場を積極的に作っていく。ただし、2018年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(3) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	岩手県大槌、釜石などの被災者
実施内容	東日本大震災から6年を経た今も、約12万人の方々が仮設住宅などで避難生活を強いられている。今年度も CODE は、被災地 NGO 協働センターの動きをサポートしつつ、提案があれば共に取り組む。2012年 CODE10周年記念シンポジウムでアフガニスタン、ハイチ、四川の被災者や NGO 関係者と東日本大震災の被災者との交流を行った事から、今後も海外の被災地と東日本大震災の被災地をつなぐ役割を模索していく。
事業の目標と終了予定時期	東北の復興状況は未だ困難な状況にあり、連携している被災地 NGO 協働センターも10年の支援を計画しており、CODE としても10年は見守る必要があることから、終了予定を2020年度末とする。ただし、2020年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(4) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015年4月25日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族、ライ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者 約3500人
実施内容	<p>●2017年度の計画</p> <p>・耐震住宅再建プロジェクト</p> <p>2015年末より耐震住宅再建プロジェクトが本格始動し、2016年夏にはモデルハウスが完成し、そこで耐震の技術を学んだ被災村の大工・石工たちが26軒の一般住宅の再建を行った。また、若い大工のニマさんを2016年10月に日本に招聘し、日本の建築を学んで</p>

	<p>もらった。</p> <p>今後、コープこうべの指導を仰ぎ、ニマさんを中心に大工・石工事業協同組合を立ち上げ、耐震技術の普及に努める。</p> <p>・村のキーパーソンの学びの場の提供 ラクパさんやニマさんの故郷であるシャーレ集落のリーダーやグデル集落の女性の地位向上の活動を行っている女性などを招へいし、日本での学びの場を持つ。具体的には、コープこうべでの協同組合の理念のレクチャーや組合員の女性たちとの交流、マイクロファイナンスの事例紹介などを学んでいただく。</p> <p>・耐震技術の普及 耐震技術を学んだ大工・石工たちは、現在、グデル村内での住宅再建にモデルハウスで学んだ耐震技術を活かしている。また、グデル村と同じソルクンプ郡のパタンジェ村で夢広の会(西宮市)が行うコミュニティセンター建設 PJ において、3 月初めにニマさんたちが耐震技術の指導に行っている。そのような交流を通してグデル村とパタンジェ村と互いに耐震技術を深め合う。このような経緯からニマさんの技術を活かすためにもグデル村シャーレ集落で民家を活用した耐震ワークショップを行い、日本の専門家にもご協力いただき、現地の人たちを中心にした「グデル村発」を盛り上げていく。将来的にグデル村とパタンジェ村にも同事業協同組合が設立されることをめざす</p> <p>・中長期的支援 現在、グデル村でのニーズは生活向上であるが、まずはコープこうべのお力添えで協同組合の精神、考え方などを学び合う場を設ける。2016 年 12 月に山添理事が現地を訪問したことをきっかけに、今後もコープこうべとの連携・協働を深めていく。 2017 年度は、ネパールのグデル村とコープこうべの組合員をつなぎ、今後の中長期的な支援の協議を重ねていく。</p> <p>今年度の予定 ・9 月頃 グデル村のキーパーソンを日本に招聘。(コープこうべ組合員との交流など) ・11 月頃 グデル村での耐震ワークショップの実施。 ・チームひょうごの報告会に参加。</p>
<p>事業の目標と 終了予定時期</p>	<p>辺境のグデル村から発信していく耐震住宅建設の智恵と技術を普及すると同時に村民の生活向上を図る。</p> <p>事業終了予定は、2020 年度末。ただし、2020 年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。</p>

●終了予定プロジェクト

事業名	1-(5) インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006 年 5 月 27 日～
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村内のナワンガン集落

受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>・呼び水プロジェクトのその後</p> <p>CODE がナワンガン集落で支援した水道支管施設によって水道料金が安くなった分を基金にし、ヤギ基金として活用されたことで終了した。</p> <p>なお、2011 年から現地に「海外研修」に行っている神戸学院大学の浅野教授に 3 年間 CODE スタッフが同行させていただき、現地のモニタリングを行ってきた。このヤギ基金プロジェクトは、すでに浅野教授と現地住民との連携によって成り立っており、現地にすでにハンドオーバーされていると考えられる。</p> <p>今年度で大学を退官される浅野教授の海外研修(2017 年 9 月 2 日～9 日)に吉椿が同行させていただき、現地の状況を最終モニタリングする。</p>
事業の目標と終了予定時期	現地にハンドオーバーされたと思われる「ヤギ基金プロジェクト」の運営状況を最終的に把握することで 2017 年度夏をもって本プロジェクトの終了とする。

事業名	1-(6) ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	レオガン周辺住民
実施内容	<p>・レオガン農業技術学校(ETAL)について</p> <p>2016 年 2 月現在、農業技術学校(ETAL)の校舎は完成し、現地の顧問委員会が 5 月に落成式を開催したが、CODE は参加することはできなかった。現在、現地の通信環境の悪さや現地の関係者との関係性悪化などから現状把握が厳しい状況にある。</p> <p>農業技術学校はすでに 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職業訓練学校(CCFPL)の校舎を借りて、授業を開始している。初年度(2014 年度)は、17 名の学生が農業を学び、2016 年度には完成した ETAL に移って授業を行っている。2016 年度の入学者は少なかったという情報もある。ハイチ友の会の小澤先生によると、ETAL で農業指導にあたる予定であった NGO、GEDDH のスタッフと Blot 神父との関係が悪く、学校の運営状況はあまり把握していないとのことであった。小澤先生は 4 月末よりハイチに行かれるので ETAL の様子を見て来ていただけるとのお言葉をいただき、現在返事待ちの状況にある。</p> <p>災害看護支援機構は、2013 年にシスター須藤のクリストロア修道女会の運営する病院「国立シグノ結核療養所」に冷蔵庫などを提供し、その後も ETAL の運営資金として 150 万円の寄付を CODE に託していただいた。</p> <p>災害看護支援機構も支援した療養所の状況や 150 万円の用途などを確認したいということで 2015 年に CODE のアテンドで現地を再訪する予定であったが、ジカ熱の感染拡大や大統領選に伴うデモ活動などで渡航を自粛してきた。最近、ジカ熱の状況も落ち着いたことから、今年度中に現地の状況を見ながら同機構と共にハイチを訪問し、ETAL の運営状</p>

	<p>況をモニタリングする。</p> <p>ハイチ支援の他の団体の状況:</p> <p>* Fuctur code ...</p> <p>大類医師の留学などで実質的に活動休止状態にあったが、継続して年に一度、ハイチを訪問し、無料で結核検診を行っている。時折、ハイチ友の会の小澤医師と協力して検診を行っている。この5月にも訪問予定。</p> <p>* ハイチ友の会...</p> <p>今年度も4月末よりハイチを訪問し、結核検診(大類医師も同行)、JICA 基金による植林(GEDDH と)、ハリケーンマシュー(2016年10月発生)の支援の視察などを行う予定である。</p> <p>* 日本ハイチ協会...</p> <p>代表の八尾さんは、昨年10月(ハリケーン上陸時)にハイチを訪問し、義肢支援活動を行っている。</p>
事業の目標と終了予定時期	今年度の現地訪問で ETAL の状況が確認し、状況によっては現地にハンドオーバーする方向で検討する。2017年度末をもって本事業を終了とする。

事業名	1-(7) 中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日～
実施場所	中国青海省玉樹県、称多県などの被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省称多県拉布郷の約3000人
実施内容	<p>・ヤク銀行プロジェクト</p> <p>ヤク銀行プロジェクトは、2013年に拉布郷拉司通村でヤク銀行委員会を設立してスタートした。称多県カトゥ村の遊牧民家族に提供された37頭のヤクは、出産し、2014年には53頭に増えた。その後、ヤクの病死などで増減を経て、現在は56頭になっている。</p> <p>昨年現地を訪問したカウンターパートのイアニさんの報告では、地元の県政府が、CODEの提案したヤク銀行プロジェクトに注目し、新たな約200頭とCODEの56頭を集約し、遊牧民へのヤクの再分配を行うことになった。CODEの提供した56頭のヤクを飼育している遊牧民ロブサンは、1/3のヤク(19頭)を得ている。これは、NGOによる提案が現地政府によって引き継がれたといえる。</p> <p>これは、ヤク銀行だけでなく、イアニさんと僧侶が行って来た植林、ゴミの分別、有機農業、水管理なども同様に集約して政府のサポートを受けている。これらの政府の意図やねらいについては、イアニさんによると、政府がチベット高原の危機的な環境問題(草原の後退など)に対してイメージアップをはかりたいのではないかということであった。イアニさんとヤク銀行委員会の協議では、政府のサポートを受ける事やヤクの再分配について同意しているという。</p> <p>状況によっては今年度現地を訪問し、被災遊牧民ロブサンの最低限の収入の補償を条件にヤク銀行委員会、現地政府と協議、提言して現地へとハンドオーバーしていく。</p>

事業の目標と 終了予定時期	現地のヤク銀行委員会と地元政府と今後のヤク銀行の動向を協議し、その後の運営をヤク銀行委員会に託す。よって 2017 年度末をもって本事業を終了とする。
------------------	---

事業名	1-(8) フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト * 本事業は、今年度から 4-(4) へ移行することで、終了したとみなす。
実施日時	2013 年 11 月 8 日～
実施場所	セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などの 6 つのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約 1000 人
実施内容	<p>* フィリピン台風救援プロジェクトは、北陸学院大学が主導する JICA 草の根技術協力事業で移行する事で、終了とみなす。</p> <p>・漁業支援プロジェクト セブ島北部やバンタヤン島の Poooc、Okoy、Anningan、Victria、Polambato の 5 つの地域で 12 艘のモーター付きボートや漁網の提供が完了した。 カウンターパートである FIDEC が、現地の生活に合わせた住民教育(漁業の状況改善、心理ケア活動、持続可能な農業、漢方薬づくりなどの新産業、DRRM-災害リスク削減マネジメント、組織開発)を実施しているがそれほど効果はあがっていないことから、下記の JICA 草の根事業で引き続き行う。CODE のフィリピン救援事業の残金は、下記の JICA 草の根とアイセックの事業で必要な場合、活用する。</p> <p>・2016 年夏に CODE 未来基金のフィールド研修でアイセック神戸大学のメンバー5 名がフィリピンでの研修を終えた。報告会などその後のフォローアップを行う。アイセックの事業として防災をテーマにしたインターンシップ、または昨年をフィリピンを訪問した学生の派遣など模索する。</p> <p>・前年度に続き、北陸学院大学が主導する JICA 草の根技術協力事業との協働プロジェクトを 2016 年度から 3 年間、北陸学院大学と協働で実施している。主たる事業は、CODE のフィールドであるバンタヤン島で現地の女性の生活向上や雇用創出、コミュニティ防災の定着をめざしたプロジェクトを展開する。</p>
事業の目標と終了予定時期	上記事業によってバンタヤン島の被災漁村の女性の収入向上をはかり、次なる災害に備えて防災を地域コミュニティに根付かせる。 事業は上記 JICA の事業に移行したとみなして 2017 年度末をもって終了とする。(JICA の事業は 2018 年度末まで。)

## 【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務所



受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	事務局は、現在 2 名(村井理事、細川さんを含めると 4 名)であるが、2016 年度は、被災地 NGO 協働センターの協力のもと、学生ボランティア(アルバイト)スタッフにかかわっていただき、事務局のサポートをしていただいた。2017 年度も未来基金事業等の学生とのかかわりの中からアルバイトやボランティアを増やし、将来のスタッフ候補を発掘する。

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	今年度も「NGO の根幹」について若者に伝えることに重きを置くことから、村井理事の「NGO とは？」シリーズとして阪神・淡路大震災から 22 年を振り返り、その経験や知識を若者に伝えていただく。2017 年度後期より開始予定。

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	月 1 回行っている「食と国際協力」を通じてボランティアや外部の人が集う場を今年度も継続していく。また、未来基金に参加した若者や関心を持っている若者が CODE にかかわる場を今後も積極的に作っていく。

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2014 年 3 月よりスタートした「食と国際協力」は、毎月、第 3 木曜日に開催しており、33 回(2017 年度 5 月時点)を迎えた。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知ることで身近に感じてもらい、災害が発生した場合はともに協力し合うことがこの企画のねらいである。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらう機会にすると同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者を発掘していく。

	<p>*今年度の開催予定</p> <p>・第 32 回 「9・11 から 15 年 れーずんを食べながらアフガニスタンの(今)を考える」 (CODE 理事 村井雅清) (2017 年 4 月 20 日) 参加人数:11 人          &lt;終了&gt; *1-(1)と重掲</p> <p>・第 33 回 「ネパールのハニーハンター」(ハニールネツサンス 米川安寿さん) (2017 年 5 月 22 日) 参加人数:9 人          &lt;終了&gt;</p> <p>・第 34 回「バングラデシュ」(関西 NGO 協議会 前事務局長代行 榛木恵子さん) (2017 年 7 月 13 日)</p> <p>その他、イラン、チベット、スリランカ、エクアドル、台湾などを実施する。</p>
--	--

### 【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	<p>「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>現在、英語の翻訳ボランティアは 1 名の方にご協力いただいているが、現状としては追いついていない。今年度はボランティアの増員をはかり、HP.FB での情報発信を充実させる。</p>

### 【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生 40 名
実施内容	<p>① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣</p> <p>CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、10 年目となる本年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱの講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。受講人数は約 40 名。</p> <p>《内容》</p> <p>9/19(火) 第1回 ガイダンス(村井理事)</p>

<p>9/26(火) 第2回 阪神淡路大震災 20 年とボランティア(村井理事)</p> <p>10/3(火) 第3回 阪神淡路大震災以降の国内災害と東日本大震災における ボランティア活動を振り返る(村井理事)</p> <p>10/10(火) 第4回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事)</p> <p>10/17(火) 第5回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について (吉椿)</p> <p>10/24(火) 第6回 フィリピン台風の復興から学ぶ NGO の取り組み(吉椿、上野)</p> <p>10/31(火) 第7回 四川大地震から学ぶ民際交流(吉椿)</p> <p>11/7(火) 第8回 ハイチ地震から学ぶ(吉椿)</p> <p>11/14(火) 第9回 アフガニスタンと開発援助(村井理事)</p> <p>11/21(火) 第10回 ネパール地震後の住まいの再建を通して、現地の暮らしと 自然との共生について学ぶ (村井理事、上野)</p> <p>11/28(火) 第11回 災害とジェンダー(齊藤容子さん)</p> <p>12/5(火) 第12回 災害時における地域力と備えの大切さについて(織田峰彦さん)</p> <p>12/12(火) 第13回 農業といのちと暮らしのつながりから持続可能な社会 とは何かを学ぶ(本野一郎さん)</p> <p>12/19(火) 第14回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事)</p> <p>1/16(木) 第15回 まとめ(村井理事)</p> <p>その他の授業</p> <p>4月29日(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)</p> <p>5月20日(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)</p> <p>6月26日(月) 神戸学院大学「社会防災特別講義IV」で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ</p> <p>昨年同様に9月中旬頃インターン学生2~3名を受け入れる。</p>
---

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》神戸女子大学
実施日時	5月から7月までの前期、毎週金曜日第2限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生20名
実施内容	<p>昨年度から神戸女子大学神戸国際教養学科で村井理事が講師として授業を行っている。今年度も引き続き以下のような内容で授業を行う。</p> <p>5/19(金) ボランティアの歴史 ~「セツルメント運動」から災害救援へ~</p> <p>5/26(金) CODE 海外災害援助市民センターの活動について ~困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う~</p> <p>6/2(金) 災害と貧困 ~貧困脱出と災害復興との関係~</p> <p>6/9(金) 異文化理解と支援 ~宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する~</p> <p>6/16(金) 新たなチャンレンジ ~ネパール地震支援プロジェクトから学ぶ~</p>

6/23(金)	女性の生活向上支援と自立	～教育のもたらす意義～
6/30(金)	長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン	～人為災害と自然災害と戦う人々～
7/7(金)	紛争後の支援から12年、アフガニスタンの今	～平和構築への課題～
7/14(金)	保護とエンパワーメント	

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣</p> <p>前年度と同様、派遣依頼があれば行う。</p> <p>* 今年度の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年6月28日 神戸女学院大学 文学部総合文化学科 「ボランティア論 I」で講義(吉椿)</li> <li>・2018年1月 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</li> </ul> <p>② 関西 NGO 協議会提言専門委員会に委員として村井理事が出席していたが、2016年度より休会している。</p> <p>③ その他必要に応じて行う。</p>

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 北陸学院大学(JICA 草の根技術協力事業) * 本年度で1-(8)のフィリピン台風救援事業を終了し、本項目へ移行する。
実施日時	2016年4月～2018年3月
実施場所	フィリピンセブ島、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>JICA 草の根技術協力事業(新・草の根協力支援型)として、JICA 北陸と北陸学院大学の主導で CODE のフィリピン台風の復興支援フィールドであるセブ島、バンタヤン島で行う。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出する。また、被災漁村の防災リーダーの育成とコミュニティ防災の向上をめざす。</p> <p>* 2017年4月21日 北陸学院大学の田中先生と打ち合わせ(吉椿)</p> <p>* 2017年8月～9月頃 JICA 北陸、北陸学院大学の田中先生とフィリピン訪問の予定(吉椿)</p>

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>2017 年度より CODE は団体理事として吉椿が理事会(2ヶ月に1回)に出席する。これまで提言専門委員として村井理事が名を連ねていたが、昨年度は十分な委員を確保できないことから休会となっていた。今年度の委員会の状況を見ながら、参加の有無を判断する。</p> <p>その他、今年度も関西地域 NGO 助成プログラム説明会、NGO スタディツアー合同説明会、関西 CS ネットワークフォーラム、セーフトラベルセミナーなどに参加する。</p> <p>* 今年度の予定</p> <p>5 月 27 日 第 16 回定期総会に出席(吉椿)</p> <p>12 月 ワンワールドフェスタ for YOUTH でワークショップ、ブース出展(吉椿、上野)</p> <p>② コープこうべとの連携</p> <p>コープこうべが実施している地区の勉強会、報告会への講師派遣を引き続き行う。また、CODE の支援する被災地(四川、フィリピン、ネパールなど)へのスタディツアーの企画なども検討する。</p> <p>* 今年度の予定</p> <p>6 月 7 日 コープこうべ第 3 地区福祉サークルリーダー連絡会で講演(吉椿)</p> <p>6 月 14 日 コープこうべ第 97 期通常総代会に出席(村井理事)</p> <p>7 月 29 日 平和の集いでレーズン販売(上野)</p> <p>9 月頃 ネパールグデル村のリーダーとの交流企画(予定)</p> <p>2018 年 3 月 ユニセフの集いでレーズン販売</p> <p>③ チームひょうご</p> <p>兵庫県立大学を中心にネパール地震支援を行う NGO、研究機関の情報交換の場として CODE も参画する。</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク</p> <p>災害時などに CODE と連携していただく若者の団体(ワカモノチカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと、神戸大学学生救援隊、NPO しゃらくなど)との関係をより深めていく。また未来基金を通じて若者どうしのネットワークも充実させていく。</p> <p>* JICA 草の根技術協力事業(フィリピン)でアイセック神戸大学委員会の学生と協働(予定)</p>

	<p>* アイセック送り出し事業局 面談(吉椿)</p> <p>* 2017 年度後期 NPO しゃらくの事業で神戸女子大学で講義を行う。(吉椿)</p> <p>⑤ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p>
--	--

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① フィリピン台風災害(2013 年)の被災地、セブ島で活動する NGO ネットワーク、ABAG CENTRAL VISAYAS との連携を JICA 草の根技術協力事業を通じて深めていく。</p> <p>② 2015 年 3 月、6 月に実施した日中 NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに四川の NGO、四川尚明公益発展研究センターや NGO 備災センター(社会的企業「壁虎漫步」と)の関係を深めてきており、今後、両国の災害救援などで連携していく。</p> <p>* 今年度の予定 中日防災・減災国際交流事業で中国(四川・上海・北京)から 23 名が来日、CODE がコーディネートを行い、防災教育を学ぶ。 * 1-(2)と重掲</p> <p>③ ネパール地震救援プロジェクトを通じて出会ったグデルシェルパコミュニティやシャーレ集落の住民で作る「伝統と文化を守る若者の会」(仮称)や夢広の会パタンジェなどとの連携を深め、ネパールの耐震技術の普及を進めていく。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>① CODE 理事による寺子屋(3 回) 昨年度実施できなかった CODE 理事 3 名(芹田代表、室崎副代表、松本理事)による寺子屋を開催する。テーマ「NGO の根幹を若者に！」(仮)を次世代に伝えていただく。</p> <p>② 一昨年度の室崎副代表理事の寺子屋 4 回シリーズの講義録を小冊子にする。学生アルバイトの協力で作業を進めていく。 寺子屋の開催状況は以下の通り</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回「阪神・淡路大震災からの学び」(2014年7月25日) 参加人数:20人</li> <li>・第2回「国内の災害復興からの学び」(2014年8月22日) 参加人数:19人</li> <li>・第3回「海外の災害復興からの学び」(2014年9月26日) 参加人数:20人</li> <li>・第4回「東日本大震災からの学びとまとめ」(2014年10月31日)参加人数:39人</li> </ul>
--	--

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>現時点(2017年5月末)での会員の状況:</p> <p>正会員 :24(団体3、個人21)</p> <p>賛助会員:123(団体2、個人121) 計:147名・団体 (*2015年度は120名・団体)</p> <p>昨年度は、ネパール地震や NHK の番組の影響で新規の会員、寄付者が大幅に増えた。これらの方々を継続的な支援者になっていただくように、クレジット寄付、ワンクリック募金(gooddo)を周知する。またリーフレットもカラーに刷新し、カラー化した CODE レターを充実させ、丁寧なレスポンスや情報発信を行っていく。</p> <p>その他、昨年度から継続している過去の会員、寄付者のデータを整理し、分析をより一層深める。</p> <p>また、2015 年度より始めた「ソーシャルアクションリング」のバナー広告を今年度も継続する。(年間 15000 円の広告収入)</p>

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会、講義の予定</p> <p>未来基金を通じて中国四川、フィリピン、ネパールなどのプロジェクトの報告会を開催する機会を持つ。</p> <p>② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。</p> <p>4月29日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) *4-(1)と重掲</p> <p>5月19日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) *4-(2)と重掲</p> <p>5月20日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) *4-(1)と重掲</p> <p>5月23日 兵庫県立大学大学院生へ講義(吉椿)</p>

- 5月26日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 6月2日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 6月7日 コープこうべ第3地区福祉サークルリーダー連絡会で講演(吉椿)  
\*4-(5)と重掲
- 6月9日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 6月14日 JICA一帯基金防災減災訪日団へ講義(吉椿) \*1-(2)と重掲
- 6月16日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 6月23日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 6月26日 神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅳ」で講義(吉椿) \*4-(1)と重掲
- 6月28日 神戸女学院大学 文学部総合文化学科「ボランティア論Ⅰ」で講義(吉椿)  
\*4-(3)と重掲
- 6月30日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 7月7日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 7月8日 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)
- 7月14日 神戸女子大学神戸国際教養学科で講義(村井理事) \*4-(2)と重掲
- 8月1日 神戸大学「阪神・淡路大震災 B」で講義(吉椿)
- 8月3日 たつの市社会福祉協議会「ジュニアボランティアスクール」で講演(吉椿)
- 8月19日 日本サッカー協会、ネパールナショナルチームへ活動紹介(吉椿)
- 8月20日 水戸ロータリークラブインターアクト大会で講演(吉椿)
- 9月19日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) \*4-(1)と重掲
- 9月26日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) \*4-(1)と重掲
- 10月3日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) \*4-(1)と重掲
- 10月10日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) \*4-(1)と重掲
- 10月17日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿) \*4-(1)と重掲
- 10月24日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿、上野) \*4-(1)と重掲
- 10月31日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿) \*4-(1)と重掲
- 11月7日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(吉椿) \*4-(1)と重掲
- 11月14日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) \*4-(1)と重掲
- 11月21日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事、上野)  
\*4-(1)と重掲
- 12月19日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(松本理事) \*4-(1)と重掲
- 2018年
- 1月 龍谷大学国際特別講義「国際NGO論」で講義(吉椿) \*4-(3)と重掲
- 1月 神戸工科高校で講義(上野)
- 1月15日 関西国際大学「セーフティマネジメント」で講義(吉椿)
- 1月16日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱで講義(村井理事) \*4-(1)と重掲
- \*その他:
- ・9月 関西学院千里国際高等部で講義(吉椿)
  - ・9月 龍谷高校で講義(吉椿)
  - ・10月 NPO しゃらくの事業として神戸女子大学で講義(吉椿)



事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年 3 回発行 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は年 3 回発行、各回約 1000 通を発送。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌: 4 月、7 月(総会報告のため)、12 月(年末寄付募集のため)に発行予定。 ・メーリングリスト: 逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、FACEBOOK: 逐次発信 ・ホームページ: 2014 年ボランティアさんの協力でリニューアルを行った。英語版もボランティアさんによって逐次、翻訳していただいている。

#### 【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	芹田代表を中心に認定 NPO 法人取得など CODE AID の具体化に向けて取り組む。

事業名	7-(3) CODE 未来基金
実施日時	2015 年 4 月 1 日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>●今年度の計画</p> <p>これまでに CODE レターや SNS を使って「未来基金」の発信を行ってきたが、下記のように寄付者・サポーターは決して多くはなく、CODE 未来基金がまだまだ認知されていない状況にある。</p> <p>2016 年度の寄付・サポーターの状況: 365 万 3576 円(寄付 31 名、サポーター 77 名)</p> <p>2016 年度、CODE 未来基金はフィールドワークプログラムとして 2 組の若者グループをフィリピン、ネパールの被災地へと送り出した。2 つの未来基金プログラム、そして日中</p>

NGO ボランティア研修交流に参加した若者が経験や学びを語った CODE 未来基金報告会では、参加者が場を共有し、自らに出来ることを真剣に考えるに至った。また、実際に未来基金のプログラムに参加した若者たちの語る言葉には力があることも実感した。」

2017 年度は、「サポーターミーティング」を軸にサポーター、寄付者など多くの方とともに未来基金にどのような寄与の仕方ができるかを話し合い、未来基金を盛り上げていく。現状として未来基金を運営するための十分な寄付集めを行うことができておらず、初動資金が目減りしている。サポーターミーティングをきっかけにサポーターを中心に未来基金の周知に努め、新規サポーターや寄付者を増やしていく。サポーターとの関係づくりやこれまでの CODE の支援者への未来基金の周知など、未来基金の基盤整備を行う一年とする。

CODE 未来基金プログラムは、今年度も若者へのプログラム募集を行う。若者への周知や若者から若者への紹介からプログラムへの申し込みを促し、昨年度には申し込みがなかったインターンやセミナーへの応募を増やしていく。

\* 今年度の計画の詳細は、別添の資料を参照。

今年度の動き：

- ・4 月 25 日 2017 年度前期 CODE 未来基金選考委員会
- ・4 月 未来基金ミーティング(榛木理事、村井理事、吉椿、上野)
- ・6 月中旬～8 月 2017 年度後期プログラム募集
- ・7 月 15 日 第 1 回 CODE 未来基金サポーターミーティング
- ・12 月～2 月 2018 年前期プログラム募集